

わが子よ、わたしの教えを忘れるな。 / わたしの戒めを心に納めよ。
そうすれば、命の年月、生涯の日々は増し / 平和が与えられるであろう。
慈しみとまこととがあなたを離れないようにせよ。
それらを首に結び / 心の中の板に書き記すがよい。
そうすれば、神と人の目に / 好意を得、成功するであろう。
心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず / 常に主を覚えてあなたの道を歩け。
そうすれば / 主はあなたの道筋をまっすぐにしてください。

(箴言 3章1-6節)

新しい年、2023年が明けまして、謹んでお慶び申し上げます。

昨年末の降雪から厳しい冬の寒さを身体で感じながら、清々しく厳粛な気持ちで新年を迎えました。

讃美歌Ⅱ編152番「古いものはみな」はこの時節の私の心境をイギリス民謡Greensleevesの調べにのせて詩的に希望に満ちて詠ってくれます。

- 1 古いものはみな うしろに過ぎ去り、 / よろこびの歌が 聞こえてくる。
山も海も ゆたかにかがやき / めぐみあふれよ、新しい年。
- 2 わたしらの罪を みな身にひきうけ、 / 十字架のうえで 死なれた主よ、
主の名づけの その日もちかづき、 / めぐみあふれよ、新しい年。
- 3 殻を脱ぐように わたしらもいまは、 / 思いわずらいを ぬぎすてよう。
愛がやどり、胸はさわやかに、 / めぐみあふれよ、新しい年。

(柳田知常 訳)

過ぎた年2022年は世界史の教科書に刻まれることが必至である、驚天動地の“annus horribilis”(恐るべき年)でありました。現在も続くロシアのウクライナ侵攻による戦闘と市民への被害、感染症との闘い、民主主義の根幹である国政選挙の真最中に犯された元首相へのテロ等、枚挙にいとまがないほどです。やはり世界には暗闇の悪の力が猛威を振り続けていると感じずにいられません。古いものをみな後ろに追いやり忘れ去りたい気持ちですが、問題と脅威は残っているどころか、なお大きくなるかのように思われるのです。

しかしながら、はじめに天地を創造され、「光あれ」と言われた神様は、聖書の最後のページで、「然り、わたし(キリストのこと)はすぐに来る」と約束しておられます。世界がたとえどんなに悪くなっているように思われても、神様は人間と世界を決してあきらめることも見放すことなさらず、やがて来るべきときに完成に導かれると聖書は教えています。これを信じているので、私たちは新しい年を、明日を、希望を持って生きることができます。

何が起るのか予想ができない世界にいる私たちは、油断することなく、しかし、いつも希望を持って歩みましょう。箴言が教えるように、「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず 常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてください」と信頼して歩めば、あなたの道は、私たちの道は、必ず確かなものとなります。

昨年は、悪いことばかりでなく、スポーツや芸術や様々な分野で、若者たちの活躍に人々が勇気を与えられました。明るい将来を期待させる光が至るところに輝いています。清教学園の生徒たちがまさしくそうであることを覚えてください。

新しい一年が恵み豊かで、賜物を生かし道を拓く年でありますよう祈ります。